

## 巻頭言

# 病院図書室に期待されるもの

前橋赤十字病院院長 宮崎 瑞穂

17年前に今の病院に赴任した時、どんな図書室だろうかと不安とひそかな期待をもってはじめてドアを開けたときの失望は忘れない。たった1つの部屋に古い図書の乗った書架があるだけで閲覧の机も4人ぐらいしか座れず、これが約80年の歴史のある病院の図書室かとひどくがっかりした覚えがある。いつかこの図書室を立派なものにしたいと思ったが、病院も経済的に苦しくとも言い出せる状態ではなかった。そのときから私が思っていた病院の図書室のありべき姿を独断と偏見で記してみる。

**1. 病院の図書室は医学情報の蓄積が無くてはならない。**

基本的な雑誌や図書がすぐに閲覧できるのは当然である。教科書的なものや歴史的に重要なものは図書室に用意しておくものだろう。もちろんビデオやスライドも当然医学情報に含まれるはずである。かつて図書の購入申請にスライドシリーズを入れたら、狭義の図書でないという理由で受け入れられずびっくりしたことがあった。

**2. 病院の図書室は情報の受け入れが自由にそして迅速に出来なくてはならない。**

医学情報は日々更新される。その量は膨大である。図書室は常時最新の情報にアクセスでき、

検索で得られた情報を受け取る場である。

莫大な情報量の中から、本当にほしい情報を入手するには、時間と労力がある。だが利用者が限られた時間内で良質の情報を検索し、入手することは難しい。情報の検索、入手を迅速に行うためには情報検索指導や文献入手の手助けをする図書館員が必要となってくる。

情報を得るにはインターネット、医療者向け放送や相互貸借制度等を活用する事になるが、図書室で保存できる情報量には限界があるし、古い情報は役に立たないので、今後はますますサービス機能が充実されるだろう。

**3. 病院の図書室は情報の発信基地であらねばならない。**

病院の広報は別にして図書室の情報だけでなく病院の情報を内部の職員、医学生、地域の開業医、医療従事者などへの発信が必要である。これには迅速性や確実性の点から図書室がおこなうのが最適と思っている。当院では図書室を地域医療連携登録医にも開放している。連携室と連携しての情報の発信も大切だ。

**4. 病院の図書室は知的生産の場でなくてはならない。**

落ち着いて考えられる環境と、ツールとしてパソコンやコピー機、スライド作成機なども自由に使える必要がある。グループワークのためにも広い部屋がほしい。

---

MIYAZAKI Mizuho

5. 病院の図書室はコミュニケーションの場ではなくてはならない。

図書室の機能が充実すると各職種の職員が集まり、職種や職場を越えたコミュニケーションの場となる。これからは院内LANなどで各部署において情報の検索などができるようになるだろうが、直接的なコミュニケーションにもこだわりたい。

6. 病院の図書室は職員の安らぎの場ではなくてはならない。

喧噪や多忙の中で図書室の落ち着いた雰囲気の中でほっとできるのは私だけであろうか。さらに加えて静かなバックグラウンドミュージックと香りの良いコーヒーでもあれば次の仕事の意欲もわくというものだ。もっとも居心地がよすぎて仕事をさぼって図書室に入りびたるようになるのも困るし、勝手な飲食を許すのも困ることになるが。

つまるところ図書室は病院にとって、もっとも大事である最新医療情報の送受の中核であることは間違いがない。EBMや事故防止の観点からも病院の質を決定する大きな部署となるはずで、図書室をみれば病院のレベルがわかると言われるようになる。図書室ほど病院により差がある施設も少ないのではないだろうか。当院も昨年に図書室を移転し、ある程度まとまった

図書室となり、やっと他の病院の仲間入りをすることが出来た。

最近では患者図書室として患者のアメニティやセカンドオピニオンの視点から患者に医学情報を提供するようになってきている。当院ではボランティアによる一般図書の貸し出しをしているが、セカンドオピニオンや納得と同意に基づく医療の実践のためにはやく整備しなければならぬ。

こうして病院図書室について様々な事を考えていると移転したばかりの図書室をもっと大きく作っておけば良かったという日が来るのもそう遠いことではないと思う。

今後はさらなるサービスの向上についてソフトウェアの充実が大切である。休日や時間外の使用、マンパワーの充実など課題も多い。だが図書室は直接に収入を得る部署でないので、本来は重要であっても病院の経営が逼迫するとまず予算が減らされかねない。予算削減とならないためには、今後も様々なサービスを展開させて図書室の有用性をアピールし、全職員に認知してもらわなければならない。

病院図書室のあるべき姿を思ったまま記してみたが、利用者の情報要求に応え、必要とされる情報を提供し、そして多様なサービスの実現を期待している。